



三条南ロータリークラブ週報

Sanjo Minami Rotary Club

2024-25 クラブテーマ 親睦から始めよう



2025. 5. 26

新会員卓話

No.2525 No. 35



会長挨拶
三条南ロータリークラブ
会 長
永桶 俊一

わたしが子供のころは、祖母・父・母・姉と私の5人家族で、祖父は戦争で早くに亡くなっていました。祖母は与板の金物屋から婿をもらったため、姓は本家の永桶のままです。家の本家は当時うちの家のとなりになりました。

うちの本家の永桶米太郎は明治15年頃に与板から来た鑿(のみ)鍛冶の河内庄次に弟子入りし鑿鍛冶になります。独立して永弘の銘を名乗り、鑿だけでなく鉋(かん)も鍛つようになりました。

初代永弘の下で一緒に仕事をしていた弟の永桶菊次は鑿の製造をまかせ、菊次は鑿鍛冶として菊弘の銘を名乗ります。

初代永弘の長女がうちの祖母で、長男は早逝、次男は商売違いの方へ進み、三男の次助が仕事の手伝いをして、初代永弘から「16歳で独立して鑿をつくれ」と言われて、鑿を作ります。行く末は鉋鍛冶永弘にさせたいのに、鉋をつくる前に鑿をつくらせたのは、鑿ができなければ鉋は難しいということなのかもしれません。10年過ぎてやがて鉋の製造を許された次助は2代目永弘として研鑽して行きます。

次助の息子の米太郎は初代永弘の米太郎と同じ名前、この人が3代目ですが、鉋の刃を研がない替え刃式かなや電動かなが出てきて、平成になり鉋の製造を止めました。

一方鑿鍛冶の菊次は菊弘として、菊次の長男昭二が跡を継ぎ二代目、昭二の息子良が3代目として継いでいます。昨年の三条市表彰で伝統技術の継承の部門で表彰されましたが、後継ぎはいません。

あらためて思うことは、三条鍛冶として大工道具から工具・鋏・爪切りへと発展・成長しているところは、時代を先読みし、変化・進化してきていると感じます。伝統や技術だけでは難しいと感じます。

わたしの商売は水道屋ですが、以前は建物の設備にそんなにお金をかけない形でしたが、水回りだったり、冷暖房だったり、換気だったり快適な環境を求められるようになり、その用途にもよりますが、

建物全体工費の30%以上は設備・電気の工事費ということが多いです。

これは我々水道屋がそうさせたのではなく、時代のニーズでそうなったと思います。わたしのようにあまり考えていない人間にはいい商売なのかもしれません。

父が満州から帰ってきたとき、父がこれからは三条にも水道の時代だからということで、長岡で仕事を覚え、三条で仕事を始めたことがうちの会社のスタートになっています。

祖母は鍛冶屋の大変さを知っていたため、息子に鍛冶屋になれとは言わなかったのかもしれないと感じています。

◆本日の出席：38名中27名

◆先週までの通算出席率：88.82%

◆先週までのメイクアップ▶5/15 三条東RCへ峰嶋由紀子さん、渡辺俊明さん、太田義人さん▶5/19 次年度親睦委員会ミーティングへ桑原朋子さん、江花正高さん、木村譲さん、木村雅也さん、田村隆雄さん、平松修之さん、石山昌宏さん、藤田寛嗣さん▶5/21 三条市共同募金委員会へ田中康之幹事▶5/22 三条東RCへ佐々木常行さん、太田義人さん、丸山智さん、峰嶋由紀子さん▶5/24 佐渡南RC創立50周年記念式典へ 永桶俊一会長、田中康之幹事

◆幹事報告 田中康之幹事

▶使用済み切手寄贈の御礼状(5月21日三条市社会福祉協議会へ田中幹事が持参)

ニコニコボックス

5/26 15,000円 本年度累計 632,000円

永桶会長「大の里優勝おめでとうございます。日本人横綱誕生で明るいニュースです。本日、木村さん新会員卓話宜しくお願いします」

田中幹事「木村雅也さん、卓話よろしくお願い致します」

木村(雅)さん「本日、卓話です。よろしくお願い致します」
荒澤さん、平松さん、木村譲さん、石山さん「木村雅也さん卓話ご苦労様です。楽しみにしています」

関さん「シベリアンハスキーが新しく我が家の家族になりました。大型犬2頭目です」

野崎さん、田代さん、銅冶さん、熊倉さん、渡辺(俊)さん、加藤さん「BOXに協力します」

渡辺(和)さん「BOXにご協力ありがとうございました」



国際ロータリー会長 ステファニー A. アーチック (米国)
第2560地区ガバナー 南雲 博文 (長岡)
第4分区分ガバナー補佐 杉山 幸英 (三条)
会 長 永桶 俊一
幹 事 田中 康之
SAA 関 博市

事務局
〒955-8666 三条市柳町2-5-10
三条信用金庫本店内
TEL 0256-35-3477
FAX 0256-32-7095
E-mail info@sanjo-minami.jp
URL https://www.sanjo-minami.jp



木村 雅也 会員

「薬局の歴史と現在」

改めまして、2月より入会させていただきました木村雅也と申します。まだまだ慣れていないことも多いですが今後ともよろしくお願いいたします。

本日は卓話ということで、弊社の紹介と薬局の歴史からここ数年における薬局の変化を含めて、現在の調剤薬局の業務内容を紹介させていただきます。

当社の紹介をさせていただきます。(株)共栄堂と申しまして、新潟県、山形県にて108店舗展開しており、ここ三条市においては5店舗展開しております。従業員数は635名、うち薬剤師が337名となっております。

また2016年より、全国で展開しておりますクオール株式会社のグループ会社となっている調剤薬局グループとなっています。

私の所属するけんおう調剤薬局は従業員11名、うち薬剤師7名となっており、比較的店舗規模の大きい薬局となっています。三条市の調剤薬局は約60店舗近くあり、コンビニよりも多い件数となっています。

初めに、なぜ医師から薬をもらわず、別に薬剤師から薬をもらうのか、医薬分業の歴史を踏まえて説明させていただきます。



ヨーロッパで神聖ローマ帝国のフリードリヒⅡ世(1194～1250年)が毒殺を怖れて、主治医とは別の者にその薬が安全か確認させたことが始まりとされています。この頃は錬金術が盛んに行われ、化学の発展をもたらしていましたが、その一方で毒薬が生み出され、王位継承をめぐる争いではしばしば毒殺が繰り返されていた時代背景があり、いわゆる毒殺防止が起源と伝えられています。写真はフリードリヒⅡ世が薬剤師に「調剤する権利証書」を渡しているシーンとなっています。

日本での医薬分業が始まったのは明治維新の直後のことです。当時の明治政府は、西洋の先進国の進んだ制度を日本に取り入れるため、西洋の医術の採用、ドイツ医学の採用を公に決め、明治4年にドイツの医学や医療制度を教えるためにドイツ人医師ミュレルとホフマンを招きました。ミュレルは「ドイツでは薬剤師のことは別に専門の学者がいてこれを担当することになっている。」と明治政府に提言し、明治7年に「医制」が交付され、この中で「薬舗開業制度」が創設されるとともに、「薬舗主(のちの薬剤

師)」制度が設けられました。明治22年に「医薬品営業並取扱規則」(やくひんえいぎょうならびやくひんとりあつかいきそく)(薬律)が制定され、現在の「薬局」や「薬剤師制度」が生まれたのです。現在の医薬品・医療機器、化粧品などに対する法律の医薬品医療機器等法にあたるものとなっています。

医薬分業は二度手間のように感じられますが、医師と薬剤師の二重でのチェックが行え、安全性が高く、より効果の高い薬物治療を行うことが可能になります。

現在に至るまで医薬分業は続き分業率は令和5年度では80.3%と8割を越えてきており、新潟県においては90.3%と全国3位となっています。

このような歴史を辿ってきましたが、近年、医療DXが進められ薬局業界は大幅に変化しています。特にICTを活用した薬局サービスが増えてきており、いくつか紹介させていただきます。一つ目は電子お薬手帳です。

電子お薬手帳アプリを使用して、自身の薬を管理するものです。QRコード等を読み取ることで薬の内容が保管されていくようなものが一般的です。アプリの種類によって多少異なりますが、処方された薬以外の健診情報や服薬管理機能、処方箋事前送信機能など様々な機能が使えます。メリットとして、手帳を忘れたといったことがなくなる、災害時等で手帳がなくともスマートフォンがあれば服用している薬が分かるなどが上げられます。

処方箋事前送信機能について詳しく説明させていただきます。処方箋をアプリ内で写真をとりあらかじめ送っておくことで待ち時間短縮をすることができます。当社で使用しているものではLINEを利用して処方箋事前送信、日時の予約、調剤完了の連絡通知など自身の都合に合わせて効率よく薬を受けることができます。

二つ目に令和5年1月より使用可能となった電子処方箋です。今までは処方箋は必ず紙で発行され紙を薬局に持参し薬をもらう必要がありましたが、電子処方箋は名前の通り電子データで処方箋が発行され、受診した医療機関より指定の薬局へデータを送り、薬をもらう仕組みです。処方箋情報がデータで保管されるようになり、他医療機関でも情報の閲覧が可能になり、飲んでいる薬が分からない場合などでも医療機関側で確認してもらうことができるようになります。事前に処方箋情報が送られているので薬をもらう待ち時間短縮にもなります。

ただし、医療機関の導入率は低く、薬局での導入率は80%を超えていますが、医療機関全体では31.5%と低い状態となっております。

処方箋発行枚数においては全体の0.15%程度しか普及しておりません。

三つ目にオンライン服薬指導です。こちらアプリ(各社色々ありますが)を使用して、映像と音声の両方を使用することを条件として非対面で薬の説明を受けることができます。説明を受けた後、支払いは電子決済、郵送にて受け取りもでき薬局へ行かずとも薬を受けとることも可能となります。

メリットとしては、自宅等で都合の良い時間に薬の説明を受けることができ、待ち時間等をなくすることができますし、感染症流行下などでは待合室など密集した場所へ行かなくても良くなるため、感染対策にもつながります。

薬局での仕事というと薬局内で薬を渡すイメージが強いと思いますが、外へ出て行う仕事も多くあります。その中の1つとして、在宅訪問指導（居宅療養管理指導）と呼ばれる、患者宅へ行き薬の管理・説明をするものがあります。薬局で薬を渡すことと同じ業務の他に、お薬カレンダーを使用して薬をセットする、服薬支援ロボットといった服薬支援機器を用いての薬を管理するなど薬局内では行うことが出来ないことを行っています。加えて自宅での服用状況を地域ネットワークを利用して多職種と連携を行ったりもしています。



お薬カレンダーは、見た目の通り、曜日・時間ごとに1週間ずつ薬をセットすることが可能となります。これにより、いつ飲めば良いかがはっきりと分かり、飲み忘れ防止に繋がります。在宅訪問をしている方で最もポピュラーなツールといえるものになります。

服薬支援ロボットと呼ばれるものです。写真の専用のピルケースに薬をセットしてロボットが服薬管理をしてくれるものになります。



服薬支援ロボットについて詳しく説明させていただきます。薬局側で前のスライドにあった、色付きのピルケースに薬をセットして上部の蓋を開けてピルケースをセットします。蓋には鍵が付いており、患者さんが開けることはできません。タッチパネルで操作するのですが、操作するにもパスワードが必要なため患者さんが操作することができません。これにより患者さんが機械をいじってしまい、誤作動を起こすことがなくなります。

特徴としては、何時に薬が出るようにするか生活リズムに合わせて細かく設定でき、外泊で自宅にいない時など、指定日のこの時間は出ないようにするような設定も可能となっています。

設定した時間になると画面と音声でお知らせが出て、ボタンを押すと薬が出てくるので飲み忘れの防止になりますし、決まった時間に決まった薬が出てくるので間違った薬の飲み方をする事がなく誤薬の予防にもなります。設定した時間でなければ緑色のボタンを押したとしても薬は出てこないの飲み過ぎの予防をすることもできます。この機械を使用することで今まで薬を飲めていなかった方でも飲み忘れなく飲めるようになったなど改善に大きくつながりました。

最後に今後の調剤薬局についてですが、「立地から機能へ、対物業務から対人業務へ、バラバラから一つへ」といった厚生労働省が2015年に策定していた「患者のための薬局ビジョン」という考え方に基いて変化していく必要があります。

患者さんの自宅や職場近くで、患者さんのすべての薬の把握や管理するといった、かかりつけ薬局・薬剤師をとなることを目指し、地域の多職種と連携し先程紹介した在宅訪問への参画が必要となってきます。これにより患者さんにとって安全性・有効性が高い治療をすることができ、年々問題となっている医療費削減に繋がるとされています。他にも単に薬をもらう場所というだけでなく、健康相談も含めた健康拠点となるような健康サポート機能を持った薬局、がんやHIVなどより専門性の高い知識やスキルを必要とする患者対応のできる高度薬学管理機能をもった薬局などが必要とされています。

このような方向性へ転換できた時には薬局業界は大きく変換を遂げることができると言えるようになると思います。

機能 ～5つのポイントで服薬支援～

Point 1

時間になると画面と音声で知らせします。
飲み忘れの予防

Point 2

正しい薬が取り出せます。
誤薬の予防

Point 3

何度押しても時間外は出ません。
飲み過ぎの予防
※取り出し有効時間 2～5時間

Point 4

最大4週間分まで記録取だし可能。
服薬履歴のデータ管理
クラウド通信により
飲み忘れをアラート通知
※通信機能Verをリリース予定

Point 5

世界的車載器メーカー日立グループが国内で製造。
長期間使用するため、振動や漏電などの厳しい製品試験を実施し
製品の耐久性と安全性を確保



6月のお祝い

◆ 会員誕生

熊倉高志さん
太田義人さん
星野健司さん
加藤峰孝さん



◆ 配偶者誕生

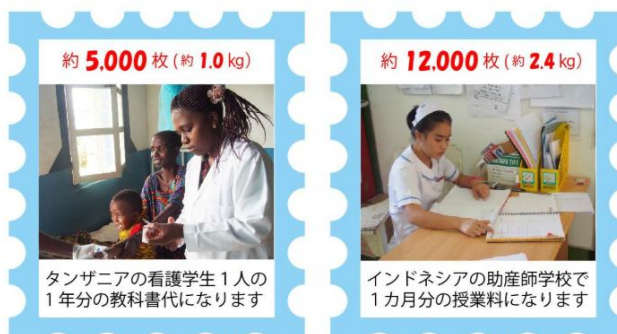
長谷川直哉さんご夫人
太田尚子義人さんご夫人
田村隆雄さんご夫人
永井篤利さんご夫人

◆ 結婚記念

木村雅也さんご夫妻
佐々木常行さんご夫妻
平松修之さんご夫妻
大溪秀夫さんご夫妻
藤田寛嗣さんご夫妻

おめでとうございます！

使用済み切手を寄付しました



会員の皆さんからお持ちよりいただいた使用済み切手をまとめて、三条市社会福祉協議会へ寄付しました。

三条市社会福祉協議会では、使用済み切手をボランティアの手で整理して「日本キリスト教海外医療協力会（JOCS）」に送っており、海外の医療支援に役立てられます。

JOCS の使用済み切手運動は、多くの個人切手収集家に換金をお願いしているため、業者による買取よりも高額となり、ご寄付いただいた切手の価値も相対的に高くなります。（画像：JOCS ウェブサイトより）

ロータリーの目的

ロータリーの目的は、意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励し、これを育むことにある。具体的には、次の各項を奨励することにある：

- 第1 知り合いを広めることによって奉仕の機会とすること；
- 第2 職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事はすべて価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものにすること；
- 第3 ロータリアン一人一人が、個人として、また事業および社会生活において、日々、奉仕の理念を実践すること；
- 第4 奉仕の理念で結ばれた職業人が、世界的ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進すること。